

〈神戸新聞総合出版センターの本〉

阪神・淡路大震災 向き合い続けた10年

メモリアルコンファレンス・イン・神戸編

1995年兵庫県南部地域を襲った「阪神・淡路大震災」を統一キーワードとして、市民・行政・NGO等分野を越えて語り合う連携会議、メモリアルコンファレンス・イン・神戸（阪神・淡路大震災の教訓を世界と21世紀に発信する会）の10年間の活動から得られた安全・安心社会への提言。

阪神大震災から10年 未来の被災者へのメッセージ

阪神大震災を記録しつづける会編

1995年2月以来、阪神大震災を記録しつづける会が、公募した震災の体験手記を毎年1巻出版してきた震災手記集の集大成となる第10巻。被災者の心の軌跡、二次災害の記録等、「市民」の声を後世に伝えたい。

阪神・淡路大震災10年全記録

神戸新聞社編

10年たった「被災地の今」を当時と現在の写真比較をしながら、震災直後からこれまでの復興ぶりを紹介する報道写真集。災害への「備えは進んだか」も検証。

守れいのちを 阪神・淡路大震災10年後の報告

神戸新聞社編

なぜ多くの命が失われたのか。まちは、暮らしはどう変わったのか。被災者と共に歩んできた神戸新聞が、震災10年を前に総力をあげて取材、発信する。新潟中越地震の緊急リポートも収録。すべては命を守るために。

阪神・淡路大震災10年 現場からの警告

時事通信記者 神谷秀之著

あの日の神戸市幹部の動きを再現。神戸市の対応を例に浮き彫りになったさまざまな問題を検証する。果たして、日本の危機管理力・防災力は高まったのか。

KOBE発 災害救援

CODE 海外災害援助市民センター編

阪神・淡路大震災を経験したKOBEから世界へ。支えあいを運びつづける、神戸市内の19の災害救援団体のボランティア活動を広く紹介。

大震災を語り継ぐ

神戸大学〈震災研究会〉編

初めて明かされる犠牲者の報告等を収録。震災をいかに未来へ引き継ぐか、シリーズ完結編。

大震災 問わずにいられない

神戸新聞社編

被災地の現状と課題を克明に伝えた神戸新聞の連載企画の単行本化。復興の5年を問う。

大震災5年の歳月

神戸大学〈震災研究会〉編

震災に多角的に取り組んできた神大が、5年間の調査研究を中間総括として報告。次の災害に備えて独自の提言も。

こうべ壊滅

吉見 敏治著

「描かなあかん。風化させたらあかんのや」失われた多くの魂に突き動かされるように描いた、心ゆさぶる画像。

ザ・仕事

神戸新聞社会部編

看護婦、建築家、商店主、タクシー運転手…それぞれの世界で震災に直面し格闘した50人のあの時、そして今。

学校防災

斎藤浩志監修／菊本格・池見宏子編著

なぜ学校は長期間、避難所となったのか。教職員は安上がりの防災要員か一次なる災害に備えて被災地から提言。

神戸の復興を求めて

神戸大学〈震災研究会〉編

約10兆円ともいわれる震災被害からいかに立ち直るか。産業・経済の実情を中心に、復興への課題を探る。

苦闘の被災生活

神戸大学〈震災研究会〉編

震災発生から1年半の被災者の厳しい生活実態を多角的に分析。あわせて、ボランティアのあり方も提言する。

いのち結んで

三条杜夫著

大震災で本社が全壊しながらも、被災者を励まし、安否情報や生活情報を送り続けたラジオ関西の奮闘を描く。

神戸 これから

安水稔和著

長田区で被災した詩人が、まちへの、人々への、自然へのおもいを書き残す。詩・散文・講演録。

大震災 地下で何が

神戸新聞社編

6000人の命を奪い、街を壊滅状態に陥れた破壊力の元区は何か。活断層、軟弱地盤、そして…。

兵庫県南部大地震と山崎断層

寺脇弘光著

兵庫県南部地震による県南西部・播磨地方の被災状況を記録し、あわせて気がかりな山崎断層の現状を検証。

甲南大学の阪神大震災

藤本建夫・森田三郎編

学生16人と講義室の半分を失い、千人以上の被災者を受け入れ、入試を控え…。私立大学の苦闘。

大震災100日の軌跡

神戸大学〈震災研究会〉編

被災地の総合大学として、阪神大震災の発生、被災、復興と防災に関する共同研究を進めた同会の研究の成果。

航空写真集 阪神・淡路大震災

神戸新聞総合出版センター編

史上初の震度7。被災地の様子が克明に収められた激震直後5日間の記録。オールカラー版。

コラムニストが見た阪神大震災

三木康弘・中元孝迪編著

悲しみを乗り越え 復興に努めようー被災者を力づけ、ともに涙した神戸新聞朝刊コラム「正平調」の101日。

大地震 その時、わが街は

神戸新聞社編

あの時から人は何を思い、どう動いたか。被災地のさまざまなドラマを、神戸新聞記者が懸命の取材でまとめた。